

行政視察等報告

(会派 公明党)

<視察目的>

「個性と魅力ある自治体づくりに挑戦する」とのテーマで開催された日本自治創造学会主催の研究大会に参加し、今の日本の諸課題について多彩な講師による講演を学ぶことで議員としての資質向上を図るため

<視察概要一覧>

視察月日	視察先	視察施設	視察内容
令和6年 5月30日 (木)	東京都千代田区神 田駿河台1-1	明治大学アカデミー コモン棟3階 アカデミーホール	2024年度日本自治創造学会 研究大会
令和6年 5月31日 (金)	同上	同上	同上

<視察概要報告>

2024年度日本自治創造学会 研究大会

●主催者

財団法人 日本自治創造学会

●テーマ

個性と魅力ある自治体づくりに挑戦する

5月30日(木) 13:00~18:10

◇国と地方の基本的課題

- ・地方自治体の目指す道

吉川 洋氏 東京大学名誉教授・財務省財務総合政策研究所名誉所長

- ・個性ある自治体づくり

牛山 久仁彦氏 明治大学政治経済学部教授

◇新たな地方議会をつくる

- ・「政策議会」の理論と実践 土山希美枝氏 法政大学法学部教授

- ・新たな地方議会の創造 “議会からの発信” 「住民自治の根幹」としての議会の作動

江藤 俊昭 大正大学地域創造学部教授

◇発想を変えた自治体づくり

- ・賢く収縮するまちづくり 青野高陽 岡山県美咲町長

5月31日（金） 10:00～15:05

◇義務教育の最重要課題

- ・今、求められる子どもの自殺予防

新井 肇 関西外国語大学国語学部教授・文科省いじめ防止対策協議会座長

◇デジタルで地方を変える

- ・デジタル導入の価値を考える 河野 太郎 デジタル大臣・衆議院議員

◇自治体を守る

- ・地方自治体と防災 DX ―令和6年能登半島地震を踏まえ―

臼田 裕一郎 国立研究開発法人防災科学技術研究所総合防災情報センター長

- ・住民目線のまちづくり “都市の正義が地方を壊す”

山下 祐介 東京都立大学人文社会学部教授

<考察>

5月30日（木）講演

今回、はじめて日本自治創造学会研究大会に参加しました。

全国、北は北海道から南は鹿児島県までの首長、
県市町村議会議員、自治体職員の方など約500名
が参加し、2日間にわたって、さまざまな専門分
野の先生9名による講演を拝聴しました。講演
は、新たな気づきをいただき、大変参考になりま
した。以下、主な意見、感想を述べます。

日本は、これからますます、少子高齢化が進み、
合計特殊出生率も低下していきます。若い世代が
結婚子育ての将来展望を描けない。未婚者のうち
「いずれ結婚するつもり」と答えた割合は、長ら
く横ばいであったようですが、直近の調査におい



ては大きく低下してきているとのこと。また、未婚者の平均希望子ども数は、減少傾向が続いており、直近の調査では特に女性が大きく減少してきているようです。このような考え方では子どもの数が増えていくことはあり得ないと思います。また日本経済の長期停滞により後退するイノベーションなど、日本社会を取り巻く状況が大きく変化してきているなか、今後日本は何をどのようにしていけばいいのか…。と、まず講演の最初の講師、吉川東京大学名誉教授より問題提起がありました。そして、牛山明治大学教授は個性ある自治体づくりとのテーマでの講演でしたが、人口減少・少子高齢化の衝撃の中で、能登半島などは激甚災害で追い打ちをかけている。全国を見ると、小規模自治体と大都市の厳しさ、災害などに対しての対応の格差など生じてはいないか？国の補助金メニューをうまく活用し、各自治体で、どう公共的な事をしていくのか？など、各自治体が国からの指示を待ち、それだけを行っていればいいのかという時代は終わったのではないかと思います。自治体が知恵を出し、どう住民サービスを行っ

ていくのか？ある意味やりがいのある自治体運営ができる時代になったともいえると思います。大正大学地域創造学部の江藤俊昭教授は、「個性と魅力ある自治体づくりに挑戦する」との講演の中で、議会改革の重要性として語られたなか印象に残ったのは、新たな議会として、閉鎖的ではなく、住民とともに歩む議会、質問の場だけではなく議員間討議を重視する議会、追認機関ではなく首長と政策競争する議会であること。北海道栗山町は「思いつきではない」改革を議会基本条例に刻み込み、地方自治の原理に由来し、住民自治の根幹としての議会を運営している。とのこと。今後の課題としては、なり手不足問題の検証組織の立ち上げ。さまざまな広報ツールを駆使し老若男女を問わず情報を届けること。議会から住民の生活圏に出向き交流する機会を増やす。主権者教育の推進強化。女性議員を増やす。等があると考えられます。私は、今後、議員の多様性について考えると共に、自治体のさまざまな課題等を吸い上げ、できるところからできることを行い、議会がもっと身近な魅力あるものになっていかなければならないと思いました。

この日最後の講演は、岡山県美咲町の青野町長でした。

美咲町を取り巻く社会背景がとても厳しいなか、青野町長は改革を進めてこられました。無駄な使い方になっていないか、時代にあっていないものはないか、非効率になっているものはないかなどさまざまな見直しに信念を持って行ってこられました。

改革には強いリーダーシップが必要だと感じました。

5月31日（金）講演



河野太郎デジタル大臣の「デジタル導入の価値を考える」の講演では、中心部には人が集まるが、周りは過疎化していくなかで、高齢化が進んでもぬくもりのある地域社会を構築していく手段としてDXは必要不可欠であるとのお話でした。

マイナンバーカードの普及率も全国的に格差があるが普及率の高いところの自治体はそれをうまく活用しての事業が行われている。また、デジタル庁の職員を派遣するので、さまざまなDX事業が各自治体でスムーズに行われていく手助けをしていくとのこと。そして、デジタル事業の更なる推進により誰ひとり取り残されない社会を作るとの講演でした。

私は、自分自身がデジタル弱者のひとりだと思っています。しかし、これから生きていくためには、DXは必要だと実感しています。これからさまざまなことが便利になり、手間をかけなくてもできることがDXによって増えていくと思います。DXがもっと身近な存在であることが大事であると思うし、当たり前になっていくよう取り組みが必要だと思います。

「今、求められる子どもの自殺予防」と題しての新井肇関西外国語大学国語学部教授の講演では、児童生徒の自殺の特徴、子どもの死生観、希死念慮の高さ、自殺者数など最新の状況を伺いましたが、とても心が痛くなるようなお話でした。

なぜ、自殺をしなければならなかったのか？もっと生きるための方法はなかったのか？周りができることはなかったのか？など色々と思いました。自殺予防の対策として過度なストレスをかけない、困ったときに気軽に相談できる体制・雰囲気をつくる、共感的人間関係を育む、自他共の心身を大切にできる安全・安心な環境をつくるなど、学校・保護者・関係機関が連携をとり、自殺予防に取り組む重要性を学びました。自殺願望のある人たちをチームとして取り組み食い止めていく。そのために自分自身も何かできることがあれば行っていきたいと思います。

以上そのほかの講演もありましたが、特に印象に残った講演の考察を述べました。今後の議員活動に活かして参ります。